

ショートコメント vol.309 (2024年1月30日)

テーマ：急増する中国向け半導体製造装置の輸出

～直近で前年比2倍に増加。輸出全体を左右する動きに～

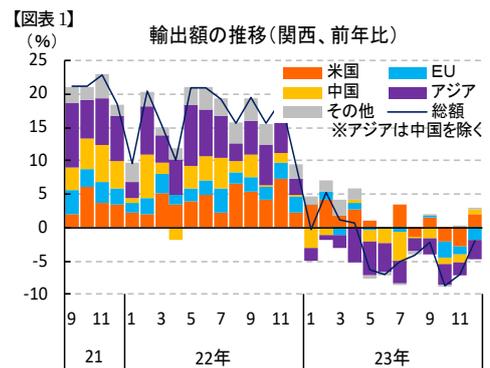
●直近の輸出統計

関西の輸出は8か月連続で前年割れとなっている(図表1)。

主な要因は、中国を中心としたアジア向けの不振である。また、月ごとの増減はあるが、欧米向けも厳しい状況にある。この背景には各地域の個別要因だけでなく、世界経済の成長鈍化があるだけに、当面は減少が続く可能性が高い。

そういった中、中国向けの輸出が8か月ぶりに増加に転じた。少し前からマイナス幅の縮小も続いており、中国の需要底打ちの兆しにもみえるが、実際は特殊事情による部分が多い。

というのも、品目別にみると一般機械の増加が中心であり、それ以外では減少が続いている(図表2)。さらにいえば、一般機械の増加の大半は、半導体等製造装置が担っている。



(出所)財務省「貿易統計」、以下同じ

●中国向けの半導体等製造装置の輸出

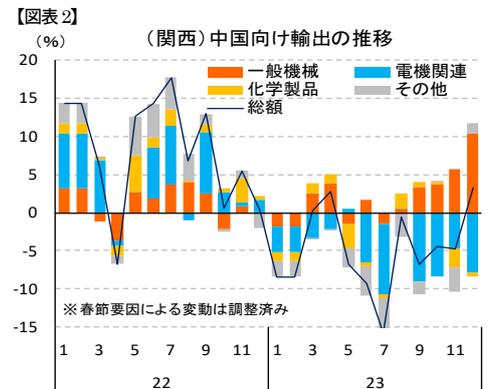
中国向けの半導体製造装置の輸出増加には、米国による一連の規制が影響していることは間違いない。

米国は一定以上の性能をもつ半導体製造装置について、中国への輸出等を規制している。さらに、その規制については日本やオランダも一部で合意している。

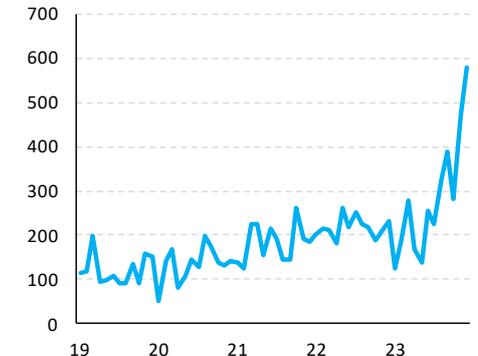
それに伴い、規制開始後は禁輸対象である高性能品を避け、汎用品に近い装置の輸出が増える形となった。背景には、さらなる規制の強化を見据えた中国企業の動きが指摘できよう。特に直近では大きく増えており、前年比で2倍といった動きがみられる。(図表3)。

一方、中国経済の状況を見る限り、折からの景気の停滞に大きな変化はない。いわゆる不動産不況が続くなか、生産の不振や消費の停滞にも波及しており、本来は生産機械の需要も減少する局面といえよう。こうした環境の中で、政治的要因によって輸出が増えているのが実情である。

したがって、中国の需要に即した輸出動向をみるためには、半導体製造装置を除いた動きに注目する必要がある。



【図表3】 (億円) 中国向け「半導体等製造装置」の輸出額



●翻弄される輸出統計

足元の中国向け半導体製造装置の輸出増は、関西の輸出全体

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

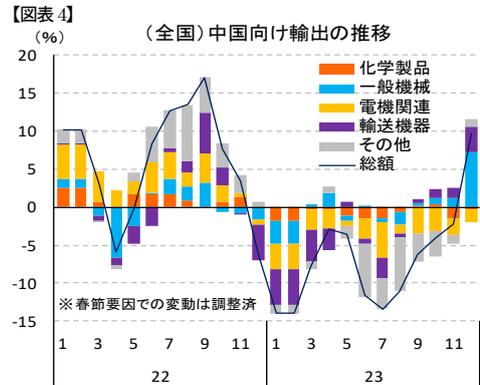
にも大きな影響を及ぼしている。

直近の23年12月の実績でいえば、中国向け輸出を7.3ポイント、輸出全体を1.7ポイント押し上げる形となった。つまり、同月の関西の輸出は1.9%のマイナスであったが、中国向けの半導体製造装置の輸出増がなければ、3.6%のマイナスであったことを意味する。中国向け輸出に至っては、3.3%のプラスから、4.0%のマイナスに転じるなど、その影響の大きさが分かる。

こうした傾向は関西に限らず、全国にもあてはまる。全国の中国向け輸出は図表4のとおりであるが、関西と同様、一般機械の急増が目立つ。その要因は、やはり半導体製造装置の増加によるものである。

中国への半導体製造装置の輸出増が、全体に及ぼす影響については、中国向け輸出を6.9ポイント、輸出全体を1.3ポイント押し上げるなど、大きなものとなっている。関西ほどではないものの、相当な影響といえよう。

こうした傾向をふまえると、直近の輸出統計は、かなり特殊事情に左右されているとの認識は欠かせない。基本的には、中国などの海外需要を反映したものとはいえず、トレンドの判断には気を付けたい。



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。